

教育事情視察団に

参加して

大道 博子

は水曜日は休日、木曜日は公務員ストのため幼稚園視察ができず、一園のみであったことは非常に残念でした。

限られた時間と範囲の視察であり、会話が十分にできないために、その幼稚園や各国の事情を語ることは、さげなればならないという思いがいたします。しかし、自分の目や耳で直接見聞き得たということは貴重なことであり、今後生かしていきたいと思えます。その一端を、私の見たまま感じただままにのべさせていただきます。

ロンドンのナースリースクール

最初に訪問いたしましたのは、ロンドンの下町にあるエッフェラー・ナースリースクール。ホテルからバスで二十分、八時三十分圏着。早く着きすぎ

「先生、さいふ。この中にお金を入れていってね」

「この花もって行ってね」

色紙で作ったさいふと造花を、職員室へもってきてくれたり、

「先生、夜はどこでねるの？ 幼稚園へ帰ってきてねるの？」と心配してくれたり……

かわいい子どもの声におくられて、

昨年九月二十七日羽田空港を出発、一路モスクワへ。十月二十六日帰国まで

一ヵ月、文部省から初めて幼稚園教員による教育事情視察団が、海外へ派遣されることになりました。その第一回の視察団の一員として参加する機会にめぐまれ、七ヵ国十都市をまわらせていただきました。主要視察国は、イギリス・フランスでしたが、フランスで

てしばらく外で待っておりました。小
学校が幼稚園の隣にあり、小学生がも
の珍らしそうに私たちをながめながら
通り過ぎていきます。

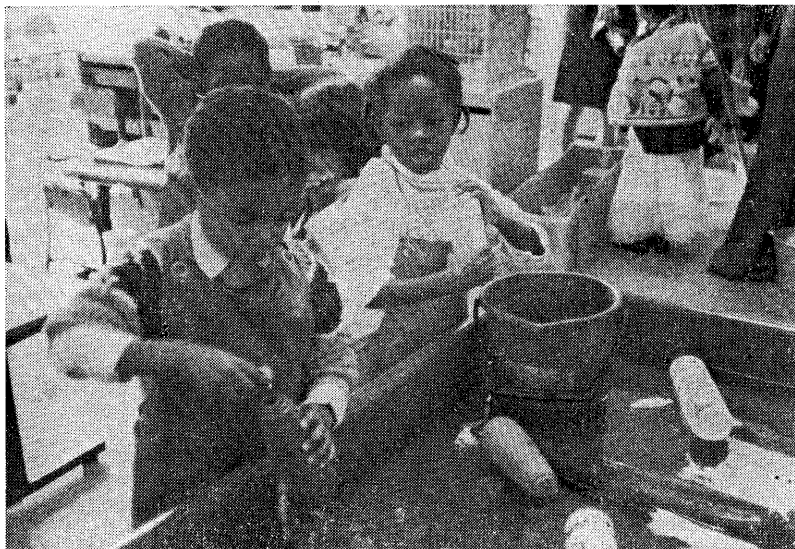
「チャイニーズ、チャイニーズ」と、
ささやいている。「私たちは日本人で
す」と話したのですが、どうしても
「チャイニーズだ」といってがんばり、
人なつっこいえがおを残して学校へか
けていきました。

園の先生らしい若い女性が門の中へ
入って行きます。くぐり戸のような簡
素な門で、その上に園名と園長名を記
した表札がたててありました。しぼら
くして紫色のパンタロンスーツを着こ
なした、小柄なやさしい感じの園長先
生が、「外にチャイニーズがいるよ」と
いって、子どもがあなた方のことを教
えてくれました」とおっしゃってこ
やかに出迎えてくださいました。

三歳から五歳未満の幼児で二学級、
こじんまりした幼稚園です。在籍一〇
五名ということでしたが、午前・午
後・終日と家庭の事情によりいろいろ
あって、一クラスの園児数は三五名程
度のように感じました。教師二名、ア
シスタント四名、事務職員一名という
職員組織ですが、アシスタント四名と
いうことは、たいへんうらやましいと
思いました。年間の出席日数二〇〇
日、週五日制で、保育時間は九時三十
分から一五時四十五分まで、その間昼
食と休息二時間あります。

九時ごろ、母親と一緒に登園、部屋
に入ってコートをぬがせたり、しぼら
くつきそって子どもの遊びをみていた
り、別れのキスをすると急いで帰る母
親などがあり、さまざまな登園風景で
した。

遊びを知らない子ども、遊びのしつ
けをしていない家庭があるので、しば
らく子どもの遊ぶようすをみせている
ということでした。九月入園ですから
なじめなくて、傍観している子どもが
いますが、ほとんどの子どもは、それ
ぞれ自分の好きな遊びをみつけて遊び
に入っています。入園当初ということ
もあって、ひとりで遊べる教材が多く
整えられていたようです。パズル・ブ
ロック・動物のおもちゃ・ねん土・色
板・積み木・ままごと・ミニカー・水
そう・砂箱・画架とポスターカラー
など、いろいろな教材があり、コーナ
ーがつくられていました。自由に好き
な遊びをしているのですが、さわがし
さはなく、子どもたちはおちついて長
時間一つの遊びにとりこんでいたと思
います。部屋が広く、自分の遊び場が
もてるということがたいせつであるこ
とを痛感しました。



えをかきあげた子どもが「先生、みて」と先生をよびます。自分のかいたもの、つくったもの、したことを認めてほしいという子どもの気持ちには、どこの国の子どもも持っている共通の願いであることを改めて感じさせられました。このことが子どもの心を動かし、行動を生き生きしたものにしていけます。先生は遠くにいましたが、その呼びかけにほほえみで答えられました。子どもは、私の方をみて認められた満足感をえがおであらわしていました。先生は、子どもの遊びをさま

たげないようにしながら、各コーナーをまわり、アドバイスをしたり、準備の補足をしたり、話し相手になったり、ひとりひとりの子どもに對し、きめ細かなかわりをしておられました。

二つの保育室をつなぐ廊下、通路といた方がいようなせまい廊下の壁に飾り棚があり、木の実や木の葉が美しくおかれていました。園長先生は、さっそく私たちがプレゼントした人形を飾り、よろこびをあらわされました。受け取る時礼をいい、客が帰ってからあげる日本人と違い、自分で包をあげて、よろこび、おどろきを全身で表現する外国の人をみていますと、さしあげた方も何だか自分がいたいたいようなうれしさ、楽しさを感じます。

飾り棚の前を通りかかった黒人の子

どもに先生が説明しておられました。

子どもの目と同じ位置に先生の目を下げ、互いにはほえみながら会話をされている姿は、みていてほほえましく思うと同時に、ひとりひとりをたいせつにすること、心の通じ合える教育の一つの姿として、日ごろの自分を思い浮かべ、反省させられました。

建築費三十六ポンドという最低の経費でたてられたとのことで、非常に簡素な園舎でしたが、園長先生の教育方針のもとに、教育的配慮のよくゆきとどいた、あたたかさの感じられるスクールでした。私が何よりうらやましく思いましたのは、見学中、外部からの電話がかかってこなかったということです。電話のベルのならない日はなく、雑用の多い日本の幼稚園の現状を思いうかべ、うらやましくもあり、ふ

しきな感じがいたしました。

「ひとりひとりの子どもをたいせつにし、その子どもに今何が必要であるかを考え、学ばせていく。子どもがどんなことに興味をもっているかを確かめ、経験を豊かにし、社会性を育てていく」という園長先生の教育方針を先生方もうけとめ、子どものベースにあったゆとりのある教育をしておられることに、感銘しつつ園を去りました。

イギリスのブリストルのインファントスクール、パリー・ロスアンゼルス幼稚園を見学させていただきました。

帰国してから人に「どこの国の教育がよかったか？」という質問をよくうけました。それぞれその国の深い歴史・宗教があり、国民性・習慣がことなります。どこの国の教育がよいか、

悪いか判断をすることはとてもできません。今は、自分の幼稚園の教育をどう考えていくべきかを、考えることで頭がいっぱいです。

個性の尊重・ひとりひとりをたいせつにする・経験を豊かにするなど、教育目標をあげます。その目標をうけて、それを実際の指導におおすとき、どうしたらよいのか、迷ってしまします。多くの経験を与えることが、経験を豊かにすることなのだろうか。ひとりひとりをたいせつにすること、ひとは、子どもの遊びを、どう教師がうけとめていくことなのかなど、疑問や課題がつぎつぎでできます。子どもとのかかわりの中で、これらの糸口をつかみたいと願っております。

(名古屋市立大高幼稚園)